

AD/HD

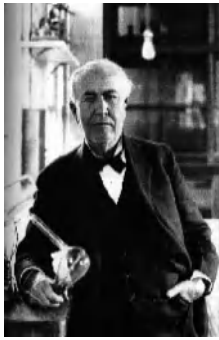
症状だけなら、誰にでも当てはまる
大切なのは、いつでも、どこでも...

DSM-5

〈神経発達症群〉

- 知的能力障害群
知的能力障害(知的発達症/知的発達障害)
- 注意欠如多動症(ADHD)
- 自閉スペクトラム症(ASD)
- 限局性学習症
読字障害、書字障害、算数障害
- コミュニケーション症群
言語障害、構音障害、吃音、社会的コミュニケーション症
- 運動症群
発達性協調運動症、チック症、常同運動症

注意欠如多動症 (AD/HD)



THOMAS ALVA EDISON
(1847-1931)

• 注意欠如 (Attention Deficit)

興味がないところに、注意を持続できない

- ・興味があれば、過剰に集中している(過集中)
- ・興味は、次々に移り変わる(転導性)

• 多動 (Hyperactivity)

知的水準に合致しない、落ち着きのなさ

- AD/HDの有病率 **5%ほど** (一般的には **3~7%**とされている)
- 女児よりも**男児に多い**

学校生活でみられる多動・衝動症状

- 意味もなく手足を動かす
- 席にじっと座っていることができず、常にそわそわしている
- おしゃべりがやめられない
- 授業中、勝手に席を離れて立ち歩く
- 静かにしていなければならない時に、走り回る
- 集団行動ができない
- 勝手に話し出したり、他の児童への質問に答えてしまう
- 順番を待つことができず、列に割り込んでしまう
- 些細なことで大声を出したり、暴れたりする
- 他の児童の邪魔をしたり、ちょっかいを出したりして、けんかになる
- 他の児童の持ち物に勝手にさわリトラブルになる

学校生活でみられる不注意症状

- 鉛筆などの学習用具を机から落としやすい
- 他の児童より頻繁にけがをする
- 文章を飛ばして読んだり、思い込みで読む
- 宿題や傘などの忘れ物が多い
- 机の中や周囲の整理整頓が苦手である
- 授業に集中することが難しい
- 指示を聞いていないため、行動が遅れる
- 話かけられているのに、上の空に見える
- 年齢不相应に字が汚い
- 好きな教科と嫌いな教科で意欲の差が激しい
- 似た課題でも、テストの点数にばらつきが大きい
- 課題や活動を順序立てて行うことが困難である
- 友人との約束を忘れてたり、約束が重複してしまう

よく見て
いない

物の管理
が苦手

気が散り
やすい

パフォーマンス
が一定しない

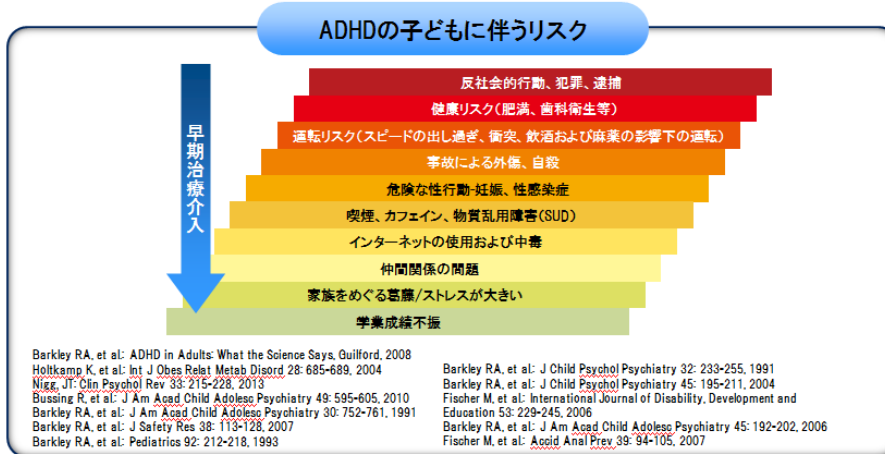
段取りが
取れない

こんなのもAD/HDの症状かも・・・

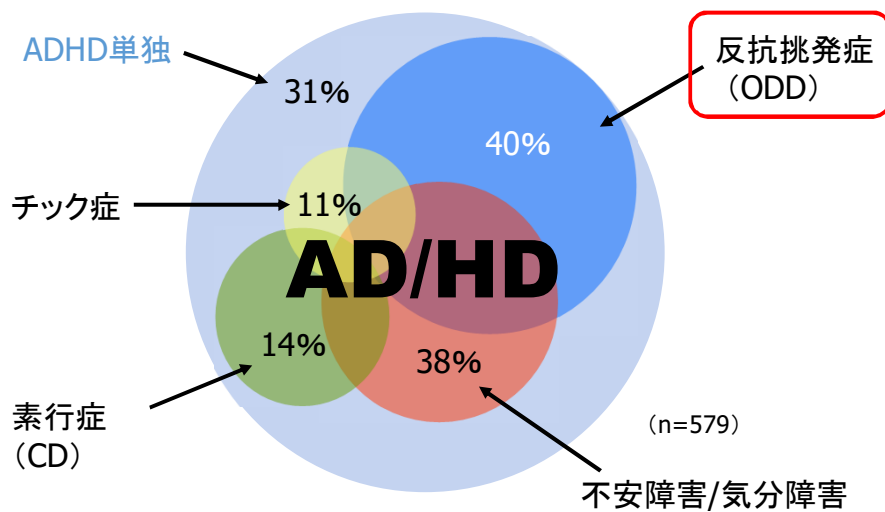
- とにかくマイペース、とりかかるのも、終わるのも遅い
出かける時間なのに支度が終わらない
食事がなかなか終わらない
毎日のように「はやくしなさい」といわれる
- 言いたいことが言えない
- どうしたらよいかわからずもじもじ
- よく探し物をしている
- 着替えや片付けの途中でほかの事をはじめてしまう
- 苦手なことはやろうとしない
- 仲間に入れない、同い年の子とあまり遊ばない
- どうして、仲間に入れてもらえないのかわからない

AD/HDの子どもに伴うリスク

- ADHDの子どもでは、適切な支援が行われないと、さまざまなリスクが伴うため、早期からの適切な治療介入が求められています。



AD/HDの併存障害



Jensen P, et al. Arch Gen Psychiatry 56: 1073-1096, 1999.

反抗挑発症(ODD)とは

自分の利益になることであっても反対したり、
周囲に対して挑戦的・挑発的かつ反抗的な態度や行動をとることが
当たり前になっている状況

適切な対応がなされないと素行症(≒非行)に進展することがある

気分障害の合併にも
要注意！
(睡眠の状況、食思不振の
有無についても確認を)

背景に発達障害が存在しない
場合には、虐待など何らかの
環境因を疑う必要がある。



横山浩之著「軽度発達障害の臨床」より

AD/HDの子が 反抗挑発症を合併しやすいのはなぜか？

ADHDによる多動・衝動性、不注意に由来する
「よくない行動」がある

叱責・非難される

分かっているけどADHDのために失敗を繰り返す

繰り返すことでさらに叱責・非難される

自尊心や意欲が低下

反抗挑発症を併発

前にも
言ったでしょ
！！

何度言ったら
分かるの！！

悪循環

AD/HDの子は なぜ、叱られるようなことばかりしてしまうのか？

「悪いこととは知っている」

しかし、
衝動性ゆえについやってしまう
→やってしまったから、「しまった」と・・・

注意欠陥のために気づかずにやってしまう
→指摘されて初めて気づき、「しまった」と・・・

よくない行動があった時には、本当は分かっているのだ、
何かしら理由があつてのことだと理解し、受け止めた上で
よくない行動を繰り返さない方法を一緒に考える必要があります。

AD/HD児の子育て支援は特別なもの？

<ADHDの小児の治療目標>

• 基本的には福祉的就労の対象となることもではない

⇒ **社会的自立**が目標

基礎学力

社会性(精神的自律)

面倒なこともコツコツとこなせる
生活習慣、学習習慣が身についている
できないことを人のせいにならない

AD/HD児の子育て支援

- ADHD児の治療目標は
特性のない子どもの子育ての目標と同じ
社会的自立なので、習得させるべき内容も同じ
- 一生懸命にしつけようとするほど
叱ってばかりになりがちなので、
ペアレントトレーニングの手法を用いて
子育て支援をする
- 成長期である子どもには習得に適した時期があるので
早期介入の時期を逃すことの弊害が大きい

AD/HD児の治療

▶ 薬物療法と心理社会的療法の併用が最も治療効果が高い(MTA study)

★**薬物療法**→症状が緩和され情報を受け止められるようになる
コンサータ、ストラテラ、ビバンセ、インチュニブ

↓

ここでどんな情報を伝えるか、
何を教育するかが重要

★**心理社会的療法**
ペアレントトレーニング
ソーシャルスキルトレーニング

AD/HD児の治療

▶ 薬物療法と心理社会的療法の併用が最も治療効果が高い(MTA study)

★薬物療法→症状が緩和され情報を受け止められるようになる
コンサータ、ストラテラ、ビバンセ、インチュニブ

↓
薬物療法と心理社会的療法は
車の両輪にとえられる。
この車の進む方向をサポート
するのが子育て支援

子育て支援が
最も重要

★心理社会的療法

ペアレントトレーニング
ソーシャルスキルトレーニング

知的能力障害

DSM-5

〈神経発達症群〉

- 知的能力障害群

知的能力障害(知的発達症/知的発達障害)

- 注意欠如多動症(ADHD)

- 自閉スペクトラム症(ASD)

- 限局性学習症

読字障害、書字障害、算数障害

- コミュニケーション症群

言語障害、構音障害、吃音、社会的コミュニケーション症

- 運動症群

発達性協調運動症、チック症、常同運動症

幼児期の発達の遅れ

- 中等度知的能力障害: $IQ < 50$

精神年齢が実年齢の半分以下
2歳児クラスのうち気付ける

- 軽度知的能力障害: $50 \leq IQ < 70$

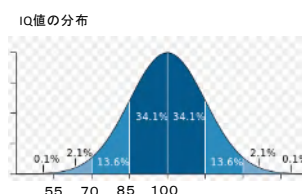
境界知能: $70 \leq IQ < 85$

幼児期には差が1年程度なので気が付きにくい

環境上の問題でも軽度の遅れは引き起こされるので、
鑑別が必要

環境上の問題があることも

⇒ “経験していない”ことはできない。



IQ70だと...

ここで見つけると
一般就労に必要な
基礎学力が
何とかなるかも

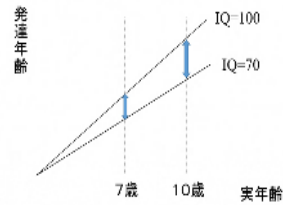
• 小学校1年生(7歳)

- $7歳 \times 70\% = 4.9歳$ (おおむね5歳)
- かるうじて、ひらがな・カタカナの読み書きが可能
- 小学1年の1学期程度はなんとか理解できる

ここから基礎学力
を身に着けさせる
ことは相当困難

• 小学校4年生(10歳)

- $10歳 \times 70\% = 7歳$
- 学力面では、もうついていけない
- 行動面では、必死の努力でついていこうとする



発達障害の子どもたちの 自立に向けて

発達障害者の離職理由の8割以上が
ソフトスキルの問題

発達障害の人の退職理由

- 簡単な作業が出来なかった
 - 自分の能力では手に負えなかった
 - 仕事の技術面で追いつけなかった
 - 仕事をするのが遅いので向かなかった
 - 人より時間がかかった
 - 仕事のレベルアップができなかった
 - 自分に合わない仕事だった
- ハードスキル
- 自分のペースで働けなかった
 - 仕事がつまらなかった
 - ストレスと体力的に続かなかった
 - 期待に応えようと頑張ったが疲れた
- ソフトスキル
- 人間関係で問題を抱えた
 - 雇用主に自分の障害を理解してもらえなかった
 - 普通の人の感覚を身につけさせようとされ精神的なダメージを受けた
 - 「障害など関係ない、努力してなおせ」と言われ重圧になった
 - 会社でいじめを受けた
 - 人間関係のややこしさにパニックを引き起こした
 - いじめにあったり、無視されたりした

就労への条件(1)

• 基本的な生活習慣の確立は必須条件

いつ、どこでも、どんな状況でも、
相手に不快感を与えない基本的な生活習慣が
身についている

あいさつ、返事、身だしなみ、清潔、食事マナー

• 基本的な生活習慣の確立していない子は

基礎学力を身につけるための学習習慣もつきにくい

• 決められたことがきちんとこなせない、

気が乗らないとさぼる習慣がついた子は就労できない

就労への条件(2)

この2つをはぐくめるのが
お手伝い

- **自己有能感**があること
自分が他人の役に立つという意識
- **自己耐用感**があること
自己有能感を維持するために耐えて努力を続けられること

松田啓一氏(就労リハビリテーション)

家庭での子育てが重要

安心できる環境のもと、
認められ肯定される経験を
幼少期から積み重ねている
こと

- 自分の仕事をしっかりと家で決めたルール通りにやること
集団の中で自分の役割を果たすという成功体験を積ませる
- 素直に人の話が聞ける・・・相談してうまくいった経験の積み重ね
- あいさつ:相手に伝わるあいさつであること
- 返事、報告:「はい、分かりました」「終わりました」
- ちょっと難しいことを家庭の中でも挑戦させ、できることを広げていく
- 余暇の過ごし方を知らないと離職傾向が高まる
余暇をどう過ごしたらよいかわからないから、働く意味が出てこない
- 昼休みの過ごし方を教えておく
- 身だしなみ、食事マナー